

これであなとも運送屋さん!「輸送結び」

「輸送結び」の結び方

さて、数あるロープワークの中でも、とても実用的な結び方のひとつである『輸送結び』についても紹介しましょう。この『輸送結び』は動滑車の原理を応用しているため、少ない力で大きな力を生み出すことができるのが特徴です。複数の荷物を荷台に固定する際等に大変便利ですが、自分で引いた力以上に荷物に負荷がかかるので注意が必要です。ここではトラックの荷崩れを防ぐことを想定して紹介しています。ロープに接触している部分の破損を防ぐために荷物には毛布をかぶせています。

準備するもの

十分な長さのロープ、荷物の破損を防ぐための毛布等

(16)



まず、写真(16)のようにロープを持ちます。
※このとき荷物の反対側は、先に紹介した『ダブルエイトフィギュアノット』で荷台のフックに引っ掛けています。

(17)



次に写真(17)のように右手で二つ折りをつくります。

(17-1)



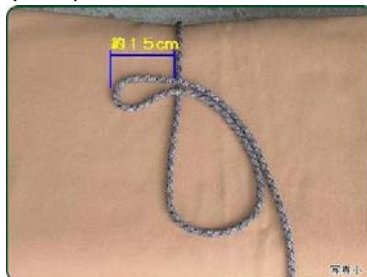
このとき右手で持っている部分は交差せずに二つ折りにしている状態です。(写真17-1)

(18)



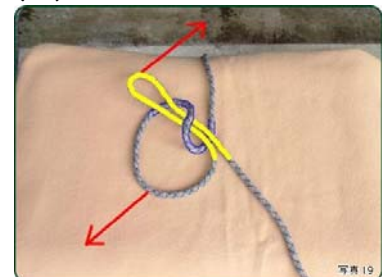
右手で持っている折り目の先端部分を左手で持っているロープの上から交差します(写真18)。
※交差部から飛び出た先端部分は、後で結べるように15センチ以上確保します。

(18-1)



手で持っていない状態です。(写真18-1)

(19)



写真(18)矢印のとおり左手で持っているロープを、とび出している先端部分の上から1回絡めると写真(19)のように上下に2つの輪ができます。
※写真(19)は絡める途中の様子で、交差部分がわかりやすいようにロープを部分的に色分けしています。

(20)

(21)

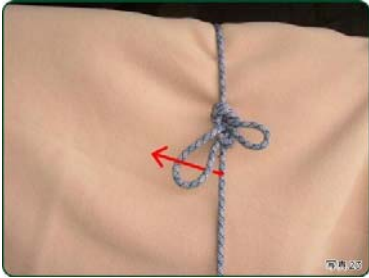
(22)



できた2つの輪の先端を写真(19)矢印の方向に引っ張っていくと、写真(20)の状態になります。写真(20)のように上下2つの輪ができている状態では正しく結んでいます。写真(22)は上の輪を結びつけた状態です。

次に上側にできた輪の先端をまとめて、写真(21)のように荷物にかかっているロープに結びつけます。

(23)



写真(22)の状態から、下方方向にまっすぐ伸びているロープをたぐり寄せるようにして、写真(23)矢印のように下側の輪の中に通していきます。

(24)



写真(24)は通している様子です。

(25)



そのまま写真(25)矢印部分を下方方向に徐々に伸ばしていき、荷台のフックに引っ掛けます。

(26)



ただいま引っ掛け中・・・
写真(26)のとおり荷台のフックに引っ掛けたら・・・

(27)



あとは写真(27)のように端末を下方方向に引っ張っていけば荷物はどんどん締まっていきます。引っ張りすぎると荷物自体を破損してしまう恐れがありますので力加減に注意しましょう!

端末の処理

(28)

(29)

(30)



十分に引っ張ったロープを写真(28)のようにもう一度荷台のフックにかけ...



写真(29)のようにロープを持ちます。



右手で持っている部分を写真(30)のように、荷物を抑えているロープの向こう側に通し...

(31)



写真(31)のように引っ張り出します。

(32)



写真(32)の状態になるまでしっかりと引っ張り、残りの部分を...

(33)



写真(33)のように荷物を抑えているロープに結びつけていきます。
※それでも端末が長いようであればこの作業を繰り返します。

(34)



ある程度の長さになったところで...

(35)



写真(35)のように残りの端末を荷台と荷物のすき間に挟みこめば...

(36)



これであなたも運送屋さん!!

大事な荷物を運んでとこまでも行けますね?!